



日本国際飢餓対策機構 (Japan International Food for the Hungry : 略して JIFH) は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体 (NGO) です。1981 年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、人財育成、海外スタッフ派遣、飢餓啓発などに活動を広げてきました。現在は、国際飢餓対策機構連合 (Food for the Hungry International Federation) の一員として、18 ヶ国 60 の協力団体とともに、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、現地パートナーと協力しあって、「こころとからだの飢餓」に応える働きをしています。

❖ 年末は本 de リンクの出番！

愛知事務所では、みなさんが使わなくなった本や CD、ゲームソフトなどを集めています。事務所に届けられた本は、スタッフが買取店や専門店へ持って行き、その換金額の全てを世界で飢餓と貧困に苦しんでおられる方々のために用いさせて頂いています。

年末の大掃除の際に不要な本や CD、ゲームなどが見つかりましたら、是非愛知事務所へお送り下さい。国際協力をしつつ、お部屋もスッキリ！皆様のご協力をお待ちしております。

●本 de リンク 2011 年報告

本 3,837 冊、CD728 枚、DVD13 枚
ゲームソフト 37 本
募金額 133,056 円
ご協力ありがとうございました。

❖ 国際協力カレンダー 「地球家族」2012 年版 クリスマスギフトにどうぞ

【壁掛け型】 縦約 54cm×横 36cm
フルカラー中綴 1 部 1,050 円 (送料別)
【卓上型】 縦約 12.5cm×横 16cm
フルカラー 7 枚、525 円 (送料別)
残り少なくなっています。お早めにお求め下さい。

❖ 東アフリカ支援活動 DVD

今年 9 月に撮影したケニアのソマリア難民キャンプやケニア貧困地区での活動の様子をナレーション付きで分かりやすく編集しています。希望される方には実費にてお分けします。

カレンダーと DVD のお申し込み、お問い合わせは、各事務所又は
㈱キングダムビジネスへ
TEL(072)940-6814
FAX(072)940-6824
ウェブサイトからお申し込みもできます。
<http://www.kbwin-win.org/>

ハンガーゼロ・サポーター大募集中！

今すぐ▶▶▶ 各種支援の お申し込み ができます!!

●まず右の必要事項に記入して、点線の枠部分を切り取りハガキに貼って、下記の大阪事務所宛に郵送、又はこの頁をコピーして、ファクシミリで申し込みください。確認のための必要書類等を送らせていただきます。
お電話でも申し込みできます。各事務所までおかけ下さい。

- ☐ ハンガーゼロ・サポーターとして協力します。
毎月 () 円 (1 円 1,000 円)
- ☐ チャイルド・サポーター (世界里親会) になりたいので説明書 (申込書) を送ってください。
- ☐ 海外スタッフ・サポーターとして協力します。
毎月 () 円 (1 円 1,000 円)
- ☐ JIFH (日本国際飢餓対策機構) サポーターとして協力します。
毎月 () 円 (1 円 500 円)
- ☐ 金融機関の自動引落し申込書を送って下さい。

フリガナ
氏名： _____ 男・女

フリガナ
住所： _____

(電話)
▼申込日： _____ 年 月 日▼

FAX・072-920-2155

贈り物に
フェアトレード
商品をどうぞ
キングダムビジネス



クリスマスや年末年始の贈り物にフェアトレード商品を活用ください。フェアトレードココアは、ドミニカ共和国のココア協同組合の人々によって生産されました。収入は学校建設、教材提供、病院建設などに用いられ、生活水準の向上に繋がっています。590 円 (200g) 送料別途。

フェアトレードチョコは、有機栽培されたボリビアの力カオとフィリピンのマスコバド黒糖などを使って、スイスで仕上げたこだわりのチョコ。ミルク、オーガニックビター、ヘーゼルナッツ、オレンジ、レーズン・カシューナッツ、ビターの 5 種類を取り揃えています。290 円 (50g) 送料別途。
㈱キングダムビジネス
TEL(072)940-6814
FAX(072)940-6824
Web : <http://kbwin-win.org/>

ハンガーゼロ・サポーター 1698 円。さらに運動をひろげていきましょー！



日本国際飢餓対策機構

2011 No.257

12

Merry Christmas

飢餓対策 News



ケニア・ダダーブ難民キャンプの子どもたち、ソマリアに真の平和が訪れて一日も早く帰国できる日がくることを祈ります

Think globally, Act locally という言葉が環境問題を考える中で一般的に定着しています。その意味は「地球規模に考え、足元から行動しよう」です。しかし近年そこに Change personally が加えられるようになりました。自らを変えていこう、です。その順番が時系列になっていると考えてもいいですし、並列していると考えてもいいでしょう。とにかく考える、行動する、変化させることが重要なのです。

今年を振り返って、国内では決して忘れることのできない 3.11 に東日本を襲った地震、津波、原発問題は世界を震撼させ、今も多くの人が苦しんでおられます。また、台風 12 号、15 号の奈良や和歌山、三重での水害の爪痕はまだ消えてはいませんし、新潟、福島を襲った大雨の傷跡も残っています。世界に目を向けるとニュージーランド地震、トルコ地震で多くの犠牲者がでました。タイ、パキスタンをはじめとする大水害は日本にも経済的打撃を与えています。私たちが現在懸命にアピールさせていただいている東アフリカの飢饉、3 年間東アフリカを襲っている大干ばつは国連によると 370 万人に緊急の支援が必要とされて

Change personally

自らを変えていこう

います。地球規模に考えなければならない課題が山積みになっています。

しかし、同時に現場、現場で多くの人々のために懸命に働く人々、特にボランティアの皆さんのことが目につきます。見返りを求めず懸命に人々のお役に立とうとしておられます。東北での私たちの活動地で今も懸命に人々に寄り添い、汗を流して働いてくださっているたくさんの方々がおられます。また世界の課題を自分の問題と捉えて支援をしてくださる多くの支援者の皆様、里親となって子どもたちの拠り所となってくださっている皆様、本当に感謝をしてい

ます。冒頭の Change personally を実践してくださる皆様とともに「私から始める、世界が変わる」ことが実現されることを信じております。1 年を振り返って皆様に心から感謝すると同時に、JIFH も共に来年も善き隣人であり続けたいと願っています。

「神にとって不可能なことはひとつもありません」

(聖書ルカ 1 章 37 節)

日本国際飢餓対策機構 常務理事 清家弘久

1 分間に 17 人 (うち 12 人が子ども) ・1 日に 2 万 5 千人 ・1 年間では約 1,000 万人が、飢えのために生命を失っています。

■発行者 岩橋竜介	大阪	〒581-0032 八尾市弓削町 3-74-1 TEL (072)920-2225 FAX (072)920-2155
■発行所 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構	東京	〒101-0062 千代田区神田駿河台 2-1 OCCビル 517 号室 TEL (03)3518-0781 FAX (03)3518-0782
Web サイトアドレス http://www.jifh.org/ e メールアドレス general@jifh.org	愛知	〒466-0064 名古屋市中区和鶴舞 3-8-10 愛知労働文化センター 2F TEL (052)731-8111 FAX (052)731-8114
■募金方法 ※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウェブサイトで	広島	〒731-0103 広島市安佐南区緑井 2-21-23 201 号 TEL (082)831-1214 FAX (082)877-3961
近所に 便利に なりました	沖縄	〒901-0156 那覇市田原 3-8-1 ユリ香ハウス 201 号 TEL (098)859-4585 FAX (098)859-4540
●郵便振替 00170-9-68590 / 日本国際飢餓対策機構 ●他の金融機関からの自動振替 ●クレジット、デジタルコンビニ	東北	〒980-0012 仙台市青葉区錦町 1-13-6 エマオ 2 階 E TEL (022)217-4611 FAX (022)217-6651

毎月、飢餓対策ニュースを皆様にお届けするために、ひばり障害者作業所 (八尾市)、生活愛、関西地区のボランティアの皆様が発送作業のご協力をして下さいます。

タイ洪水緊急支援

1万家族に食料や水などを配給



洪水被災者に支援パックを配布するタイ国際飢餓対策機構のスタッフ



タイ洪水被害マップ

2011年11月22日時点の被害状況

- 洪水発生県：17県
（※洪水が発生後、既に水が引いている県：19県。）
- 死者：606人
- 行方不明者：3人

出典：日本貿易振興機構（ジェトロ・バンコク事務所）

タイで7月末に始まった記録的な大雨は衰えることなく、これまでにない規模の洪水被害を起こしています。北部から始まった洪水は、200万戸を襲った後もさらにバンコク中心部に向けて南下を続けています。水没した地域では食料をはじめ、生活必需品が入手できなくなっています。特に被災した自宅に残っている人々は、悪臭を放つ水に囲まれ不安を募らせています。避難所でも食料の調達は支援物資に依存している状態です。さらに、事態の長期化が予想される中、衛生状態の悪化や Dengue 熱などの感染症の拡大が懸念されています。

いったん自然災害が発生すると最も深刻な被害を受けるのは、平時貧しく、飢餓に苦しむ方々が多

く住む地域です。今回のタイのように比較的経済的に安定している地域でもやはり貧困地域が最も深刻な被害を受けています。

緊急支援パックを配布

洪水被害が首都バンコク中心街に迫る中、日本国際飢餓対策機構はこのような困難に直面する方々を支援するために、現地パートナーのタイ国際飢餓対策機構（TFHI）を通じて緊急支援パックを配給することを決定。バンコクではタイ国際飢餓対策機構のスタッフがボートで水没した街を巡りながら、被災した1万家族に対して緊急支援パックの配給を行っています。

緊急支援パックに含まれるのは、食料（米、麺）、飲料水、ラ

イター、蚊よけ、ライフジャケット、簡易調理器具など。

日本からも支援物資

また、当機構の協力企業パン・アキモトから提供していただいたパンの缶詰約4,000缶と当機構で確保していた消毒用ジェル、汚染された水から不純物を取り除くフィルター、米、衣類などをコンテナ便で被災された方々のもとに送りました。なお当機構では、タイでの緊急支援活動のためにすでに1万ドル（約75万円）を送金しています。

当機構では、長期化するタイ洪水被災者への支援活動のために、皆様からの緊急支援募金を求めています。募金の際は「タイ洪水」と指定ください。

活動地の

ボリビア多民族国

駐在 小西小百合

思い出



●小西小百合●

1996年から3年間ドミニカ共和国、4年間ペルー共和国での働きを経て、現在ボリビア多民族国のコチャバンバ、チャヤで人づくりコーディネーターとして活動中

私は現在ボリビアのコチャバンバ州、アンデス山脈の標高4000m以上に位置するタパカリ郡チャヤにおいて、世界里親会の人づくりコーディネーターおよびチャヤ地域担当スタッフとして活動しています。

このチャヤ地域には幾つもの村があって、先住民族のうちアイマラ族とケチュア族の方々が暮らし、主にじゃがいもの生産と羊やらくだ科のリヤマ（ヤマ）などの牧畜で生計を立てています。子どもたちは小学校

に入学すると公用語のスペイン語を学びます。電話・携帯・テレビ等の電波は届かず、年中とても寒く、特に冬や雨季には外気が夜間氷点下15度ほどにもなるため、外部からの訪問者は外国人だけではなくボリビア人であっても頭痛や動悸などの高山病や寒さとの戦いがあります。しかし現地の人々は、裸足に古タイヤを切って作ったようなとても風通しが良いゴムサンダルで年中過ごしています。

さて古くから現在も続いている土着信仰は大地の母・パチャママ信仰で、人々は農作物の豊穰を祈願します。しかしスペイン人がボリビアを植民地化したときにカトリックの信仰が伝わり、その後キリスト教プロテスタント（新教）

の地域教会も各地にできました。チャヤにおいても同様です。以前はクリスマスの概念が全く無く、今でもチャヤの一般の人々はクリスマスをお祝いしません。しかし地域

チャヤのChristmas



家畜にも飾りをつけて

のキリスト教会では小さいグループながらもクリスマスを祝っています。

家畜と祝うクリスマス

チャヤ地域のクリスマスは動物・家畜と一緒に祝うもので、現地語で“キルパク”といい羊、リヤマ、牛の耳に“ティカンチャル”“とよばれる色とりどりの毛糸や布の飾りをつけます。またそれから家畜、特に羊の体に子どもを沢山生むようにとの願いを込め

て、ピンクと白の小さな玉状の甘いお菓子やキヌアという雑穀、また沢山の色とりどりの小さな紙片を上からふりかけるようにして散りばめます。そして”カンカ”と呼ばれるクリスマスの特別料理（じゃがいもと子羊またはリヤマの肉を調理したもの）を家族

や村の人々と一緒に食べます。村の教会では特別礼拝をし、献金の中から子ども達にお菓子や小さなおもちゃなどの贈り物をします。地域の生活に密着した彼ら独特のクリスマスです。

今年も世界中で心がこもったそれぞれのクリスマスが祝福されることを願っています。



アフリカの子どもたちに愛のおくりものを！



世界里親会
クリスマス
特別アピール

ルワンダでは120人の子どもたちが里親さんを待っています



子どもたちは学校での学びを楽しんでいます

ルワンダ共和国は悲しい歴史を背負い、今もその傷跡を深く残している国です。植民地時代、旧宗主国であるベルギーがツチ人を厚遇しました。人口の約85%を占めるツチ人はこのことに不満を抱き、長年争いが起こっていました。1994年ハビャリマナ大統領が暗殺されたことをきっかけにツチ人によるツチ人虐殺が起こり、100日間のうちに当時730万人の人口のうち80万～100万人が殺害されました。20世紀最悪の大量虐殺です。そのために17年たった今でも人々の心の中には深い傷が残り、国造りに大きな影を落としています。虐殺の悲劇の時期に強姦を受けた女性や子どもたちの中には、エイズに感染している者も多く、遺族や孤児など不利な立場に立たされた人々が国のいたるところで苦しい生活を強いられています。

丘陵地にあるピース・インターナショナル学校の校舎



プから来た子ども、エイズに感染している子どもなど家庭が貧しく様々な重荷を抱えた子どもたちです。

現在この学校では85名の生徒が学んでいますが、キガリの都市計画によって、校舎が取り壊されることになっています。

この学校は、ニャンザに「ニャンザ・ピース・アカデミー」という外務省の「草の根・人間の安全保障無償資金」によって建設された校舎もあります。今年一月に開校したこちらの学校では、40名ほどの子ども達が学んでいます。来年からは新たに70名の子ども達が入学する予定です。キガリの子どもたちもこのニャンザの学校で勉強を続けることができるように、寄宿舎を作りたいと願っています。

これらの学校では、無償の教育の提供、子どもに学校を続けさせるために両親を対象としたカウンセリング、希望、愛、平和を育てるための地域セミナーなどを行っています。多くの貧しい家庭の子どもたちを学校から遠ざける原因となっている、食糧や文



房具の不足に対する支援もしています。一人でも多くの子どもたちが質の高い教育を受け、この地域に安全で平和な環境をもたらすことがこの学校の目的です。

平和構築の担い手に

《校長先生から》不平等な世界に真の平和はありません。ルワンダ社会にはさまざまな格差が存在しますが、それを私たちが放置すれば、若い世代にいつまでも憎しみが残ります。適切な教育が行われるところには、憎しみの連鎖は起こらず、平和な環境が構築されていきます。私たちは世界里親会による支援が始まることによって、ルワンダの子どもたちと地域が変わっていくことを信じています。皆様からの祈りに心から感謝します。



子どもたちの健全な成長が地域の未来を明るくすることを信じて

チャイルド サポーター (世界里親会) Q&A

❑ 里子の年齢は？

☑ 原則として5歳～18歳までです。ただし、18歳を超えても里子が在学中の場合は支援の延長をお願いすることもあります。

❑ 支援する里子は選べますか？

☑ どの国の里子を支援するか、希望をうかがうことはできます。（ご希望に沿えない場合もございます）男女の別は選んで頂けます。

❑ 里親にはどんな情報が届きますか？

以下のものをお届けしています。飢餓対策ニュース（毎月発行）、きすなノート（支援スタート時）＝里子の個人報告書、写真、里子からの挨拶の手紙がまとめられたもの。成長記録（年1回）、手紙・クリスマスカードなど

❑ 里子との手紙のやりとりはできますか？

はい。里子は里親さんからの手紙を心待ちにしており、とても喜びます。里子への手紙は日本からまとめて現地にお送りしています。里子からの手紙は、現地から世界里親会に届き、その後お手元にお届けいたします。このやり取りには通常、2～3ヵ月以上を要します。

❑ 手紙は日本語でいいのですか？

はい。J I F Hのスタッフが英語に翻訳をいたします。現地では日本語の手紙と共に英語に訳された物を現地の言葉に翻訳して里子に届けられます。

支援のお問い合わせは大阪事務所
☎072 (920) 2225まで
ウェブからも申し込みできます

【支援地域の状況】

(1)首都キガリ市内のスラムの子どもたち

子どもたちの両親は、都市部のため農作物を育てる土地を持たず、日雇い労働や物売りあるいは使用人として働くほかありません。またコンゴからの難民の子どもは、公立学校に入れてもらえないので、ピース・インターナショナル・スクール・キガリが受け入れています。

(2)ルワンダ南部州ニャンザの子どもたち

この地域に暮す人々の大半は貧しい農民です。小さな畑で豆、トマト、キャベツ、キャッサバなどを栽培しています。また現金収入を得るために町で物売りなどをして暮らしを支えています。この地域にはルワンダだけではなく、戦争によってコンゴやブルンジから難民として流入してきた人々もいて、厳しい状況の中で暮らしていま

す。

耕す土地さえ十分に持たない貧農や、近くの町へ出かけて行って道端で物を売って日銭を稼いでいる家庭には、食べ物同様、教育の機会も与えられない子どもがまだまだたくさんいるのです

嫌いなもの「飢餓と戦争」

今回、世界里親会ではこれらの地域の子どもの支援を始めます。現地から送られてきた子どもたちのプロフィールには、好きなものは「勉強」嫌いなものは「飢餓」あるいは「戦争」と書いている子どもが何人もいて、飢餓や戦争を身近に経験している状況や、学校に行くのをとても楽しみにしている様子うかがえます。

いずれの地域でも子どもたちが暮らしている家は、トタン屋根に土壁、床は土間、台所もトイレも外。台所は屋

根付きの小屋ならばいい方で、屋外で煮炊きをしているケースも多いようです。また、電気は街道沿いには来ているのですが、まだまだ街道を離れた個人の家までは来ていません。また、水もポンプのあるところか、水源地にポリタンクを抱えて水汲みに行くのです。子ども達も学校に行く前、あるいは帰ってから、水汲みの手伝いをしています。

難民の子どもたちが通う学校

ピース・インターナショナル・スクール・キガリは、この地域に住む様々な問題を抱えた恵まれない子どもたちに基礎教育を提供するために、2002年にデニス・ムガボ牧師によってキガリに創設されました。学校にきている子どもの60%は、難民キャン



WORLD COOKING

11月5日、当機構愛知事務所と名古屋YWCAの共同企画で「WORLD COOKING」という料理イベントが名古屋YWCAで行われました。「食を通して世界を体験し、またそれぞれの国の事情を美味しく楽しくみんな

ソースの「マ」
★アボカドサラダのサンドイッチ
どれも聞き慣れない名前で最初は「どんな料理が出来るんだろう」と少し不安でしたが、一口食べた後に全員が「おいしー！」と歓喜の声をあげていました。ベナン料理は日本人の口に合い、どれもとても美味しかったです。

料理を食べた後は、ベナンの国の写真を見ながらベナンの文化について伺いました。最後には、当機構が支援している東アフリカでの飢餓の状況も伝えさせて頂き、おな

かも心も満たされた充実の150分間でした。（愛知事務所・小島）



私から
始めます
支援者の取り組み

東日本大震災とアフリカの飢餓を応援 大阪城公園でチャリティイベント開催

このイベントでは、事前に参加者がスポンサーを集め自分が歩いたり走ったりした距離に応じて集めた金額を支援団体に募金します。11月3日、大阪女学院大学の先生方を中心とする参加者の皆さん

さんが大阪城公園に集まり、ある人は徒歩で、またある人はジョギングや自転車でお堀の周りをぐるりと一周、二周して下さいました。ベビーカーを押しながら走って下さったお父さんや、「私はそんなに歩けないから」と募金を持参して下さいましたご婦人もありました。

このイベントを企画し主催して下さいましたワンドゥラガウ先生は、スリランカ出身で貧困を身近に見て育ち、日本では阪神淡路大震災を経験されたことから「今、世界にある必要を私たちは忘れてはいけません」と語って下さいました。まさに「わたしから始める、世界が変わる」を実践してられる皆さんです。

することはできません。聖書に“これらの私の兄弟たち、しかも最も小さい者たちのひとりにした



のは、わたしにしたのです”とあります。私もそれを少しでも実行できたらと思いました」と語って下さいました。まさに「わたしから始める、世界が変わる」を実践してられる皆さんです。（大阪事務所・富浪）



親子で楽しくラン（子どもは自転車で参加）

●飢餓と貧困に苦しむ人々や東日本大震災の被災者応援のためのチャリティ企画は各事務所までご相談ください！

NPO田原しみん震災支援ネット

「生野菜が欲しい!!」の声を聞いて即断

東日本大震災の直後、愛知県から被災地への支援物資の要請がありました。しかし受付は三日間でこちらの準備が間に合いませんでした。その後毎日、テレビなどで巨大津波の映像を見るにつれ、我が町の人々は支援物資を送りたいとの思いをつのらせていました。が、物資を届けるための窓口がなく悶々としていました。



4月18日に震災支援緑化イベントが開かれ、私は翌日仙台でJIFHのボランティア活動に参加しました。その夜のミーティングで「生鮮野菜が緊急に欲しいと」の声が出ました。早速「NPO田原しみん震災支援ネット」のリーダーに電話をかけたところ、三日後に1.5トンの野菜満載のトラックが駆けつけました。それをきっかけに、10トン（キャベツ約3,000個、野菜、お米、調味料、日用品など）、4トン、5トンのトラックや宅急便などで約9回支援物資を送り届けました。夏過ぎには、3回に分けて自転車63台を送ることができました。この支援の窓口となって下さったJIFH



NPO田原しみん震災支援ネットから届いた大量のキャベツ（4月）



を、我が町のNPOは感謝しております。（報告：渥美キリスト教会牧師・加藤信雄）

2011.12
No.257
7

全日空シカゴ支店

翼を広げてボランティア派遣応援

駒谷剛史さんは全日空（ANA）シカゴ支店の旅客セールスマネージャーです。

3月11日、日本を襲った目を覆うような惨状をテレビで見て、日本にすぐにでも飛んでいきたいと思いながらそれができず、何が

自分にできるかを自問しながら日々を過ごしておられました。そこに、アメリカで親交のあった小針勇吾牧師（シカゴ日本人教会）からアメリカ人のチームを震災支援のために送るので、航空会社として渡航費用で協力してくれない



米国から来たボランティアの皆さん（官理町で）

だろうか相談を受けました。すでにシカゴや周辺の地域から30名近くのボランティアが日本母国の支援のために地元の人が出かけてくださる、それにぜひ協力させてもらおうと、駒谷さんはANAシカゴ支店として渡航

費用の半額を負担することを決断して下さいました。

すでにシカゴや周辺の地域から30名近くのボランティアが日本国際飢餓対策機構がベースを置いている仙台に駆けつけ、仙台、亘理、石巻、東松島などでの活動に加わり献身的に働いてくださっています。「ボランティアを支える企業ボランティアとしてこれからも協力していきたい」と熱く語って下さいました。



駒谷剛史さん

●東日本緊急支援募金にご協力を 郵便振替 00170-9-68590 日本国際飢餓対策機構 記入欄に「東北地震」と明記